

報道発表資料の配付日時 11月13日(水) 10時00分

発表項目 (行事名)	令和元年度 土砂災害減災シンポジウム ー有珠山2000年噴火に伴う土砂災害の対応から得られた経験知と 今後の土砂災害減災のありかたー		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>有珠山は、有史以降約20～30年程度の周期で噴火しており、前回の2000年噴火から19年が経過しています。そのため、本シンポジウムは、一般の方や行政担当者、大学研究者、民間技術者を対象に、有珠山の2000年噴火当時の土砂災害対応の経験知を共有するとともに、近年の土砂災害対応に関する研究の進展や技術開発の成果などを報告します。</p> <p>北海道には、有珠山を含む9つの常時観測火山があることから、それらの火山においても適用できる内容としています。</p> <p><u>※本シンポジウムは一般公開で、参加は無料です。</u></p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日 時：令和元年(2019年)11月21日(木)13:00～17:30 2 場 所：洞爺湖文化センター本館ホール 3 共催：洞爺湖町、北海道開発局、北海道、(公社)砂防学会北海道支部 4 後援：壮瞥町、豊浦町、伊達市、(一社)全国治水砂防協会北海道支部、北海道砂防ボランティア協会、北海道大学広域複合災害研究センター 5 シンポジウムの内容： ・特別講演 丸谷知己 北大名誉教授： 「北海道の火山における土砂災害減災の戦略」 ・2000年噴火を経験した方々によるパネルディスカッション ・今後の噴火に起因した土砂災害対応の新しい減災技術の報告</p>		
参 考	<p>・常時観測火山とは、火山噴火予知連絡会によって選定された監視・観測体制の充実等が必要な火山です。</p> <p>・道内の常時観測火山は、有珠山、北海道駒ヶ岳、樽前山、十勝岳、雌阿寒岳、恵山、倶多楽、アトサヌプリ、大雪山の9火山です。</p> <p>・同日に室蘭建設管理部、北海道開発局、室蘭開発建設部、砂防学会北海道支部からも報道依頼をしています。</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	広く道民の皆さまに参加を呼びかけたいので、積極的な報道をお願いいたします。		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レター		
担 当 (連絡先)	建設部土木局河川砂防課砂防グループ(担当者：主幹 伊藤 拓郎) TEL ダイヤルイン 011-204-5560 内線 29-404		

令和元年度 土砂災害減災シンポジウム

- 有珠山 2000 年噴火に伴う土砂災害の対応から得られた経験知と

今後の土砂災害減災のありかた -

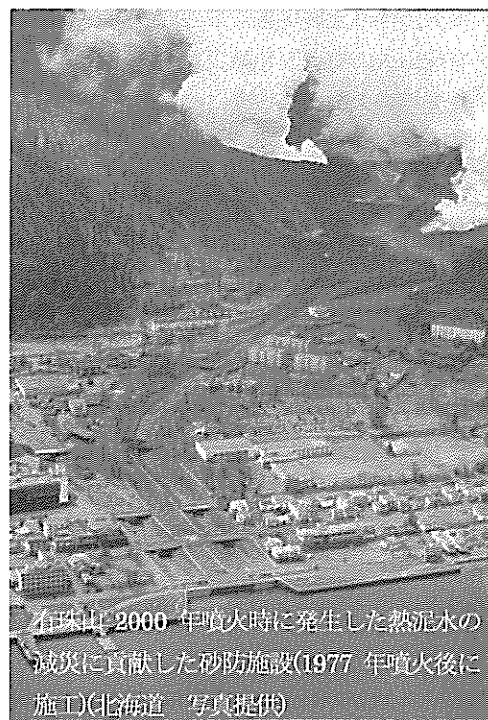
有珠山 2000 年噴火から 20 年になろうとしています。有珠山 2000 年噴火直後には、国、道、町の砂防・防災行政担当者や民間技術者、研究者が強力に連携し合い、降灰後の土石流や熱泥水などによる被害の軽減に大きな役割を果たしました。

この貴重な経験知を若手・中堅に伝承するとともに、近年の新しい砂防技術などに着目し、有珠山での今後の噴火に対して効果的な土砂災害減災が可能な体制の整備と技術開発の促進が重要です。

本シンポジウムは、2000 年噴火直後の土砂災害対応の経験知とその後の研究の進展、技術開発の成果をふまえた今後の土砂災害対応手法を砂防・防災行政担当者が認識・共有するとともに住民の方々に周知することを目的としています。さらに、有珠山以外の道内 8 つの活火山での土砂災害減災においても適用できる議論の成果を目指します。

※本シンポジウムは一般公開で参加は無料です。火山防災や土砂災害対策に興味のある関係者や住民の方々の多数の参加をお待ち申し上げます。

※民間技術者の方は、本シンポジウムに参加することにより CPD を取得できます。



有珠山 2000 年噴火時に発生した熱泥水の減災に貢献した砂防施設(1977 年噴火後に施工)(北海道 写真提供)

【日時とシンポジウム会場】

日程：2019 年 11 月 21 日(木) 13:00~17:30

会場：洞爺湖文化センター 本館ホール http://cmssvtown.tovako.hokkaido.jp/tourism/art_culture/atc003/

【共催・後援】

共催：洞爺湖町、北海道開発局、北海道、(公社)砂防学会北海道支部

後援：壮瞥町、豊浦町、伊達市、(一社)全国治水砂防協会北海道支部、北海道砂防ボランティア協会、北海道大学広域複合災害研究センター

【シンポジウムの内容】

○特別講演 「北海道の火山における土砂災害減災の戦略(仮題)」

丸谷知己 北海道総合研究機構理事・北海道大学名誉教授



○第一部 パネルディスカッション：2000年噴火直後の土砂災害対応と中堅・若手への経験知の伝承
 コーディネーター：南 哲行（一財）砂防・地すべり技術センター理事長（元国土交通省砂防部長）
 パネラー：（ ）は当時の所属機関
 ・小林幹男(北海道開発局) ・米津仁司(北海道開発局室蘭開発建設部) ・山廣孝之(北海道本庁)
 ・西尾正己(北海道室蘭土木現業所) ・中山秀紀(北海道室蘭土木現業所洞爺出張所)
 ・杉浦信男(国土交通省砂防部砂防計画課)

○第二部 今後の噴火に起因した土砂災害に対応するための新しい減災技術
 ・噴火に伴う土砂災害対策の取り組みに関する最近の話題（国土交通省砂防部砂防計画課）
 ・有珠山火山噴火緊急減災対策砂防計画の要点と土砂災害対策の現状報告(北海道建設部)
 ・最先端の火山砂防技術についての様々な話題

シンポジウム参加申し込み先（締め切り：2019年10月25日(金)）
※住民の方々は、自由に参加いただけますので申し込みいただく必要はありません。

※シンポジウムに参加いただける行政機関,民間,教育機関関係者は,以下の申込内容をメールあるいはFAXにて下記あて連絡いただけますようお願いいたします。質問なども下記の担当者にお問い合わせください。

(公社) 砂防学会北海道支部 桂, 斎藤
 〒060-0002 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学研究院流域砂防学研究室
 E-mail: jsece-hokkaido@agr.hokudai.ac.jp FAX: 011-706-4935

 E-mail: jsece-hokkaido@agr.hokudai.ac.jp FAX: 011-706-4935

2019年11月21日 令和元年度土砂災害減災シンポジウム事務局あて

2019年11月21日 令和元年度 土砂災害減災シンポジウム - 有珠山2000年噴火に伴う土砂災害の対応から得られた経験知と今後の土砂災害減災のありかた - 参加申し込み
ご氏名：
ご所属・役職：
連絡先電話番号：
E-mail アドレス：
連絡事項：